む す び

環境管理のワークショップへの話題提供という意味で，コンピュータメーカーのアプリケーション開発担当者として，環境計画へのコンピュータ利用という面で，これまで経験した作業の紹介を行なった．モデルの精度向上，誤差検定，簡便手法の開発など今後克服すべき課題は多いが，ワークショップ参集者の興味と有益な批評を得られ，大いに勇気づけられた．

執筆者紹介

よしおか・ひであき　1947年生　富士通(株)システム開発部

専攻：都市工学

略歴：東京大学都市工学科卒業，富士通入社システム部配属，ハワイ大学環境シミュレーション研究所に研究員として派遣される．以後システム開発部に戻り現在に至る．

……学会研究論文の新しい刊行形態について……

今回の学会誌形態の変更にともなって，学会の研究論文は，以下の方式によって刊行されることになりましたので，お知らせします．

1. 和文，欧文(英，独，仏)を問わず，研究論文は論文誌一本にまとめる．この論文誌には研究論文だけを掲載する．したがって従来「経営科学」にのってきた研究論文以外の記事に相当するものは，すべて当機関誌に掲載される．

2. 論文誌の名称は日本語名「日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌」欧文名を「Journal of the Operations Research Society of Japan」とする．「経営科学」は誌名としては廃される．

3. 論文誌の予約，配布，購読もすべて論文誌一本としての取り扱いになる．しかしいうまでもなく，単独号を事後的に購入することは従来通り可能である．

4. 論文誌の発行回数は年4回，分量は毎号約100ページとする．審査済み論文を出版まで長期間待たせることは，学会の機能上大きな問題になるので，今後論文の量がなお増大してゆく場合には，それにつれて増ページで処理する方向で考える．

5. 和文，欧文とも印刷形態としては，著書のタイプ清打原稿からの直接写真オフセット印刷の方式による．これは欧文について50年度に実施したのと同じ方式である．

6. タイプ原稿の作成と処理に関し，和文と欧文で若干の相違があることは無視できないが，なるべく同程度の印刷品質が得られるように運営する．また投稿規定にも同じ考え方を反映させる．

以下当面の運用方式として，

7. 論文誌の1～4号を欧文号と和文号に分け，一冊の中での和欧混載は避ける．51年度については1～3号を欧文，4号を和文にあてる予定である．ただし配布については上記**3**のとおりとする．

8. 上記変更にともなう経過措置として，50年度内に「経営科学」増補を発行する．(51年1月発行予定)

論文誌投稿規定の概要

上記の発行形態変更と**5**，**6**の方針にともなって，論文誌の投稿規定も変更になります．詳細については「経営科学」第19巻増補に掲載されますが，次に概要をお知らせします．

1. 和文，欧文ともタイプ清打，図版トレースの段階までを著者の責任とし，それ以後を学会の負担として，原稿の直接写真オフセット製版の方式によって印刷する．投稿規定をこれに則して改める．

2. 和文，欧文とも，タイプ清打原稿を自分で準備するのに困難を感ずる著者に対しては，学会が業者に依頼する．その実費は著者の負担とする．和文の場合はこの形が通例になることが予想されるが，その場合学会に送付する投稿については，従来の「経営科学」の投稿規定にほぼ準ずる．また上記実費は昭和50年秋の段階で，和文で2,000円/頁，欧文で2,500円/頁程度と推定される．タイプを学会に依頼した著書は，海外在住者は別として一度だけ校正できる．

3. 和文の場合，従来の英文アブストラクトの他に，同程度の和文のアブストラクトも別に提出すること．これは編集のうえ，当機関誌に掲載する．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．